

## は じ め に

第42回北海道麦作共励会の開催にあたって、関係各位の皆様には絶大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年の第1回審査委員会（委員長：北海道農業研究センター 老田 茂 寒地野菜水田作研究領域長）を8月5日に開催し、開催要領、審査基準、推薦調書について検討を行い、本年の北海道麦作共励会の取り組みを決定いたしました。その後、審査委員会の決定を踏まえ、8月18日付けで各地区協会に開催案内を行い、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

令和3年産の秋まき小麦は、10a当たり収量599kgで前年対比111%、平年対比では117%と上回りました。春まき小麦では、10a当たり収量356kgで前年対比99%、平年対比では109%と上回りました。

全道の作付面積は、約10.9万haで、前年対比103%でした。収穫量は、約65万トンで前年対比114%となりました。

また、秋まき小麦の品質では、降雨の影響もなく1等麦比率89.6%と高い割合となりました。品質ランク区分も基準値をクリアすることができました。春まき小麦では、1等麦比率は88.5%となりました。

麦作共励会へは、全道的に平年を上回る作柄となり関係者の協力で4点の出展となりました。4点の内訳は、個人の部秋まき小麦第2部（秋まき小麦20ha未満）で2点。個人の部春まき小麦で1点。集団の部秋まき小麦で1点でした。

本報告書は、各部門の最優秀受賞者と最優秀賞に肩をならべる事例と評価された特別優秀賞受賞者の麦づくりと経営概要をまとめたものです。作成にあたって、老田 審査委員長に審査報告をお願いし、関係地区の審査委員はじめ農業改良普及センター、農協の関係各位に各受賞者の概要をまとめていただきました。

本報告書が皆さんの麦づくりや経営改善の一助になることを願っております。最後になりますが、本年の麦作共励会の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様に対しまして、あらためて心からお礼申し上げます。

2022年3月1日

一般社団法人 北海道農産協会